

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 29 年度 前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	佐々木 崇晴	会員番号	0032958	
申請者の所属・職名	理化学研究所 IMS 粘膜システム研究グループ 特別研究員			
出席会議名	18 <sup>th</sup> International Congress of Mucosal Immunology (ICMI2017)			
発表論文タイトル	Involvement of innate lymphoid cells in the induction of obesity			

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出していただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめとします選考員の方々、並びに私を推薦してくださいました大野博司先生に心より御礼申し上げます。

私は 2017 年 7 月 19 日～7 月 22 日に米国・ワシントン DC にて開催されました 18th International Congress of Mucosal Immunology (ICMI2017) に参加させていただきました。本学会は粘膜免疫や腸内細菌などについて研究を行っている研究者・医者・企業などが世界各国より集まり意見交換を行う権威ある学会です。私は肥満の誘導における自然リンパ球の関与という演題について口頭・ポスターの両方で発表をさせていただきました。私の研究では、肥満の誘導に自然リンパ球が関与するという現象を発見した点では面白いのですが、メカニズムが今ひとつ分からないという問題点があります。本学会ではこの点に焦点をあてて海外のさまざまな先生方と議論していただき、今後どのように研究を展開していくか再考する良い機会を得ることができました。また、日本でも免疫学や腸内細菌の研究を通じて肥満やメタボリックシンドロームの発症メカニズムを解明しようとする研究が進められておりますが、海外と比較して一歩遅れをとっているのが現状であると感じており、今回の学会でも海外の研究者のお話を伺って改めてその点を痛感致しました。同時に、肥満やメタボリックシンドロームがなぜ生じるのか、その本質的な原因については未だ不明である為、私の研究からここを明らかにして日本がこの研究をリードできるように研責を積みたいと本学会を機に改めて強く感じました。

学会期間中は腸内細菌や食物と免疫系との相互作用に関連した演題が見受けられ、有名ラボの方々が発表していたこともあり活発に情報交換をさせていただきました。興味のある手法を詳細に教えていただいたり、未解明の研究課題について沢山の先生方と議論することができ、今後の研究に有用な幅広い知識を得ることができたとともに大変貴重な体験をさせていただきました。

Tadamitsu Kishimoto International Travel Award にご支援頂いて参加させていただいた本学会の経験と知識を存分に活かし、今後の研究に勤しんで参りたいと思います。